

新庄市議会 行政視察報告書

会派又は議員名 開成の会

【全体的事項】

1. 視察日程 平成25年11月11日（月）～12日（火）
2. 調査事項（視察先）北海道ニセコ町・伊達市
 - (1) 職員の採用・人材育成について 説明 ニセコ町総務課 佐藤秀征氏
 - (2) 定住化対策について 説明 伊達市企画課長 石澤高幸氏
3. 視察参加議員
奥山省三・沼澤恵一・遠藤敏信・伊藤 操・小関 淳

【具体的事項】

職員採用、人材育成、定住化対策

調査事項（1）

職員の人材育成や採用について （市町村名）北海道ニセコ町
人口：約4,800人 面積：197.13 km²

（視察事項）

○自治体運営の基本となる職員の人材育成と職員の採用について、独自の方針で実践しており、様々な町政課題に柔軟な思考と実践力で対応しているニセコ町を視察した。

職員採用については、多様な人材を確保するため、社会人採用の枠を設け、1泊2日の面接で、より深い選考を実施するなど、厳しい時代に対応すべく積極的な取り組みをしている。

職員研修については、ニセコ町が「住むことが誇りに思えるまちづくり」を基本理念に据えていることから、なにより「ひとづくり」が重要であることをまちづくりの中心としている。それをもとに、庁内では従来の職員像を見直し、地方分権が進む中で地域の実情に応じた行政を展開するために、職員の資質向上による組織強化を進めている。

ニセコ町の平成25年度職員研修費が約730万円という数字が示しているように、職員約90名に様々な研修の機会を積極的に与えようという意思がはっきりと窺える。

しかし、職員研修については、成果を数値化できず、議会や住民に対して明確

な説明は困難であるが、内外の様々な研修に積極的に参加することによって、多くの刺激を受け、地域課題などを共有するネットワークも構築でき、住民のための施策や事業をスムーズ且つ的確に進める上で、大きなメリットとなっていることは間違いないようであった。

■視察日時 平成25年11月11日（月）
午後3時00分～5時00分

■所 感

ニセコ町は、北海道の道南、ウィンタースポーツ、アウトドアスポーツと年間を通した観光地として、全国的にも有名な町である。観光客は年間約140万にも のぼり、近年は、外国人の観光客も年間10万人ほどに迫る勢いである。

そのニセコ町住民の福祉向上のために現在88名の町職員が公務に携わっている。説明をしていただいた方によると、職員の生涯コストが一説には2億とも3億円とも言われており、大きなコストがかかっている。その職員一人一人の能力をより向上させ、最大限住民のために貢献していくことは、当たり前のことである。であるからこそ、職員採用や職員研修を見直して充実させていくことが、自治体にとって重要なのである、という説明でした。ちなみに新庄市の平成25年度職員研修費は職員約290名に対して、約200万円。予算の多寡だけが、その充実度を測るモノサシではないが、職員資質向上の重要性を首長がどれだけ強く認識しているかのバロメーターにはなるはずである。また、議会側からはこの予算については理解してもらっているとのことであった。

今回は、年間50億に満たない予算規模の自治体が、職員の資質向上に多くの予算と時間をかけ、新しい混迷の時代に対応できる組織体制づくりを実現し、住民福祉の向上に貢献していくという「明確な覚悟」が感じられた、実に有意義な視察であった。

新庄市職員アンケートによると、職員の約8割強が、「より向上したい」と回答している。その職員の思いを実現させ、市民の福祉向上に役立てていくためにも、さらに、会派として職員研修などの動向を注視していきたいと考えている。

調査事項（2）

定住化政策について （市町村名）北海道 伊達市

人口： 約36,000人 面積： 444.28 km²

（視察事項）

少子高齢化が進む中で、高齢者が安心・安全に暮らせるまちづくりを進めるとともに、高齢者ニーズに応える新たな生活産業を創出し、働く人達の雇用を促進

して、豊かで快適なまちづくりを目指す「伊達ウェルシーランド構想」を官民共同で進め、定住促進につなげる取り組みにより、定住促進を進めている。

「伊達ウェルシーランド構想」とは、平成14年、その構想に賛同する、まちづくりに意欲がある市民に参加を募り伊達ウェルシーランド構想プロジェクト研究会(のちに豊かなまち創出協議会)を発足させ、官民一体となって協議を重ね、実践してきた事業である。

高齢者が安心して居住できる「伊達版安心ハウス」は平成17年に民間企業が建設した。また、平成18年からは、デマンド交通として「愛のりタクシー」を開始した。さらに市役所内には「住んでみたいまちづくり課」を設置し、移住相談や移住体験などの要望者に「ワンストップ窓口」を設け、スムーズに対応する移住・定住促進事業などを積極的に進めている。それによる効果は、人口減少率が他自治体よりも格段に遅いということからも確認できる。

■視察日時 平成25年11月11日(火)
午前10時00分～12時00分

■所 感

伊達市は道南にあり、道内の中では比較的気候が穏やかな「北の湘南」と呼ばれている市である。平成18年に旧大滝村と合併、行政区域は新庄市の約2倍の444km²となっている。人口は新庄市とほぼ同規模であるが、伊達区と大滝区の間には別の自治体があり、「飛び地状態」となっている。それゆえに地理的にも気候的にも全く違う2つ地域が存在し、そのような状況からみても行政運営の厳しさがうかがえた。

そのような地域で、高齢者ニーズに応える新たな生活産業を創出し、働く人達の雇用を促進して、豊かで快適なまちづくりを目指す「伊達ウェルシーランド構想」を進め、定住化につなげようとしている取り組みは意義深かった。

今回、伊達市の定住促進についての取り組みの説明には、行政と民間のまちづくりへの強い思いが感じられ、それを実践している確かな行動力が伝わってきた。新庄市でも、少子高齢化や人口減少が加速度を増している状況があり、官民一体となった、早急で有効性のある施策が必要であると痛感させられた視察であった。